

OT のスタッフ育成

特集にあたって

■OT として、専門家として何が必要であろうか

専門家とは、一般に専門的知識・技術を有し、それを常時発揮できること、それを冷静に分析し、厳しく顧みることができること、次に発展させること、これらを実行でき、第三者が認めていること、といわれている。

OT 数は年々飛躍的に増加しており、それと同時に各領域での専門性の追求、新たな領域での取り組みも多く展開され、OT に求められる役割も多種多様になってきている。また、医療・福祉・介護制度の変革やこれまでの実績から社会的認知度も向上し、作業療法の普及が著しく進んだ。

このような中、作業療法の今後の重要課題として、接遇の向上、対象者、他連携職種の方々とのコミュニケーション能力を高めること、現場において作業療法特性を発揮するための戦略的・創造的取り組み等が挙げられる。OT 一人ひとりの資質向上・能力開発、作業療法の継続と発展を担う人材の輩出が求められている。

本特集では、OT に求められる基本的資質を考え、人材育成論、作業療法の各領域における専門的な教育体制、養成校による卒後教育や都道府県作業療法士会活動の取り組みを紹介する。作業療法は、必要な何かを対象者と共に創造していくことであり、スタッフ育成も同様である。本特集のどの論稿からも、創意工夫を重ねた、OT 育成に関するさまざまな考えや取り組みがあることが伝わり、作業療法の本質をあらためて考えさせられる。執筆いただいた各先生方に感謝するとともに、皆様のスタッフ育成に少しでも貢献できることを願いたい。

(三瀬和彦)

企画担当

三瀬 和彦 (甲府城南病院, 作業療法士)

澤 俊二 (藤田保健衛生大学, 作業療法士)

山本 伸一 (山梨リハビリテーション病院, 作業療法士)